



宗教哲学の救済論—後期田辺哲学の研究—

廖欽彬 編

本書主要以宗教哲學的觀點，來探討京都學派哲學家田邊元的中、後期思想。作者以異於舊有的觀點，來研究田邊宗教哲學的發展，並試圖突顯出異於西方宗教哲學類型的近代日本宗教哲學。本書在探討被稱為田邊哲學的「種的邏輯」體系中的哲學與宗教，即合理性與非合理性的對立統一結構（絕對媒介的辯證法結構）後，檢視「種的邏輯」的崩壞過程，接著究明戰後被重新建構的、從懺悔道哲學、基督教的辯證到「死的哲學」這一代表後期田邊哲學面貌的宗教哲學構造，並對該哲學在現實世界的實踐可能性提出質疑。在此論證過程中，作者闡明了日本中世宗教家道元與親鸞的宗教思想，經由田邊的現代哲學解釋，具有絕對媒介辯證法的結構，形成近代日本的宗教哲學面貌。作者最後以台灣這一異文化觀點，論究了台灣日治時期哲學家洪耀勳有關「實存」概念的哲學思考，並從跨文化的視野和田邊哲學進行了比較。◆

本書は京都学派の哲学者・田辺元の中、後期思想を、宗教哲学の観点から探究したものである。作者は、従来とは異なる視点で、田辺の宗教哲学の展開を論究し、西洋における宗教哲学の類型に異色を示す近代日本の宗教哲学を浮き彫りにしようとした。本書は、田辺哲学と称される「種の論理」体系にある哲学と宗教との、すなわち合理的なものとは非合理的なものとの対立的統一の構造を示す絶対媒介の弁証法を検証し、その論理的な破綻の過程を追いつつ、戦後新たに構築された懺悔道哲学から、キリスト教の弁証へ、そして「死の哲学」に至るまでの、後期田辺哲学の真骨頂を表す宗教哲学の構造を究明し、その現実世界における実践可能性を問うた。その中で、中世日本の宗教家・道元と親鸞の宗教思想を近代哲学の立場から解釈し、絶対媒介の弁証法を内実とする近代日本の宗教哲学の構築に成功した田辺哲学の真髓を解明した。最後に台湾という異文化の観点から、台湾植民地時代の哲学者・洪耀勳の「実存」概念をめぐる哲学的思索を論究しつつ、問文化的視点から田辺哲学との比較を試みた。◆

日本學研究叢書 32



近代日本哲学と東アジア
藤田正勝、林永強 編

近年來，近代日本哲學相關的研究雖然逐漸受到海外學界關注，多數研究仍侷限在特定視野之下，將這些成果互相對照，綜合檢視的研究並不充分。爲了突破這樣的現況，本書網羅東亞各國的研究者，以「東亞」爲視點，探討近代日本哲學的歷史、現狀，及其所代表的意義，嘗試以較宏觀的視野來看近代日本哲學研究這個課題。本書共分兩部，第一部「以東亞的角度看日本近代哲學」，收錄了三篇以上述觀點探討近代日本哲學的論文。第二部「東亞哲學與日本哲學」則收錄了五篇論文，分別探討近代日本哲學家井筒俊彥、和辻哲郎、山内得立等人的思想特徵及其意義與東洋哲學，如佛教、儒學思想之間的關聯。◆

近年、近代日本哲学に関しては、海外においても大きな関心をもたれるようになったが、多くの場合、ある限定された視野のなかで研究が進められ、また、その成果を突きあわせて検討し議論することは、これまで必ずしも十分になされてこなかった。そのような状況を打ち破るために、本書では、「東アジア」という視点を設定し、東アジアのさまざまな国の研究者が参加して、近代日本哲学の歴史や現状、それがもつ意義、さらにはその課題を広い視点から考察することを試みた。第一部「東アジアという視点から見た日本近代哲学」では、そのような観点から書かれた論文三点を収めた。それとともに、第二部「東洋哲学と日本哲学」においては、井筒俊彦や和辻哲郎、山内得立など、近代日本の個々の哲学者の思想の特徴や意義を、東洋哲学、たとえば仏教や儒学思想との関わりに目を向けて考察した論考五点を収めた。◆

日本學研究叢書一覽 (1-30)

日本學研究叢書一覽 (1-30)		
1	国際日本学研究所の基層—台日相互理解の思索と実践に向けて—	徐興慶、太田登 編
2	国際日本学研究所の最前線に向けて—流行・ことば・物語の力—	林立萍 編
3	日本近現代文学に内在する他者としての「中国」	范淑文 編
4	日本中世文学における儒釈道典籍の受容—『沙石集』と『徒然草』—	曹景惠 著
5	東アジア龍船競漕の研究—台湾・長崎・沖縄の比較—	黃麗雲 著
6	現代日本語造語の諸相	林慧君 著
7	転換中の EU と「東アジア共同体」—台湾から世界を考える—	徐興慶、陳永峰 編
8	近代東アジアのアポリア	徐興慶 編
9	朱子学と近世・近代の東アジア	井上克人、黃俊傑、陶徳民 編
10	明治日本における台湾像の形成—新聞メディアによる 1874 年「台湾事件」の表象—	陳萱 著
11	日本昔話語彙の研究	林立萍 著
12	非断定的表現「(し) そうだ」に関する語用論的考察	黃鈺涵 著
13	詩に興り礼に立つ—中井竹山における『詩経』学と礼学思想の研究—	田世民 著
14	台湾法における日本的要素	王泰升 著
15	石川啄木詩歌研究への射程	林水福、太田登 編
16	台湾に生まれ育つ台日国際児のバイリンガリズム	服部美貴 著
17	自由・平等・植民地性—台湾における植民地教育制度の形成—	山本和行 著
18	帝国日本の教育総力戦—植民地の「国民学校」制度と初等義務教育政策の研究—	林琪禎 著
19	日本統治期台湾における訳者及び「翻訳」活動—植民地統治と言語文化の錯綜関係—	楊承淑 編
20	東アジア情勢の転換とアベノミクスの影響	蘇顯揚、魏聰哲 編
21	思想史から東アジアを考える	辻本雅史、徐興慶 編
22	東アジアにおけるトランスナショナルな文化の伝播・交流—メディアを中心に—	梁蘊嫻 編
23	福島事故後台日エネルギー政策の変換と原子力協力	謝牧謙、石門環 編
24	鎖国と開国—近世日本の内と外—	辻本雅史、劉序楓 編
25	西川満研究—台湾文学史の視座から—	陳藻香 著
26	漱石と〈時代〉—没後百年に読み拓く—	范淑文 編
27	東アジアにおける知の交流—越境・記憶・共生—	林淑丹、陳明姿 著
28	近代日本の中国学	廖欽彬、高木智見 編
29	伊沢修二と台湾	木下知威 編
30	十七世紀の東アジア文化交流—黄檗宗を中心に—	徐興慶、劉序楓 編

* 在日本欲購買本叢書請洽紀伊國屋書店。
本叢書は日本の紀伊國屋書店でお買い求めいただけます。